

2018年9月 第38号
月刊
いきいき道政報告

日本共産党 道議会議員

佐野 弘美

発行

日本共産党
佐野弘美事務所
北区北20西5 2-27

Tel 011-790-6411
Fax 011-790-6412

胆振東部地震、道内初の震度7

9月6日に発生した地震を受け、共産党北海道委員会は7日午前、畠山和也前衆院議員を本部長とする災害対策本部の第1回会議を札幌市内で開きました。紙智子参院議員、道議団、札幌市議団らが参加して、現状や今後の方針について議論しました。

8日、佐野弘美道議を本部長とする札幌北区災害対策本部が設置されました。会議では現状認識などを統一し、引き続き区内の被災状況把握、要望の聴き取りや支援、行政への要請など、救援活動に取り組む方針を確認しました。

一時は市内最大震度 北区の震度5強

「ブラックアウト」と呼ばれる大規模停電が全道に及び、北区でも最大時には1700人ももの区民が、避難所に身を寄せました。



自宅に居ても食料や照明の確保、ラジオや携帯の電源確保に苦勞し、団地住民は断水にも悩まされ

地盤沈下の現地調査 佐野議員（左から四人目） 4日清田区

ました。

佐野議員は、地震発生後の6日から北区内の避難所や給水所を訪問し、「お見舞い」と被災状況や要望の把握、支援に取り組みました。宮川潤議員は液状化して波打つ東区の道路を調査し、東区土木維持管理課に早期の対策を求めました。

清田区里塚を調査

佐野弘美議員ら道議団は8日、吉岡弘子市議候補の案内で、4ヶ所の陥没、2ヶ所の地盤沈下、大量の土砂が市道を覆い、家々が大きく傾くなどの被害が大きかった清田区里塚地域で、被害状況を調べ、住民の要望を聞き取りました。

若い母親は「来年子どもも入学を控えて、この家に住めなくなるのは困る。先が見えなくて辛い」と涙ながらに語りました。

くらしを守る道予算に

共産党道議団は8月20日、経済を抜本的に改善し、道民のくらし雇用を守る来年度予算となるよう、高橋はるみ知事に要望を行いました。道は辻泰弘副知事が対応しました。

一次産業振興や

地域医療の充実を

要望事項は、「改めて国の抜本的支援を求め、鉄道路線を守り、安全対策を徹底する」、「地域医療と介護の充実、子育て応援」、「公共事業をくらし優先に転換」、「安定雇用の拡大」、「第一次産業振興」など38項目に及びました。

不安定雇用解消を目的に改正された労働契約法の主旨である、5年以上働いた有期雇用労働者が、無期雇用に転換申し込みできる、「無期転換



知事要請を行う道議団 佐野議員 (左はし)

ルールを周知徹底せよ」との求めに対し、辻副知事が「無期転換逃れなどの雇い止めをさせないよう関係部門のすみずみまで徹底したい」と表明しました。

カジノに反対

辻副知事は「カジノを中核とするIRはインバウンドの起爆剤として期待しているが、ギャンブル依存など悪影響が懸念される。有識者懇談会等の意見を聴きながら適切に判断したい」と発言し、佐野議員は「カジノ解禁は、海外資本に道内市場を開放することで、狙いは道民の懐だと、道自身の調査で明らかになったではないか。道民や北海道の自然、文化、食を求めてくる観光客を食い物にするカジノには反対するべき」と強く指摘しました。

国立八雲病院残して

佐野弘美議員は7日、保健福祉委員会と国立北海道医療センター(札幌)と国立函館病院に移転して、2020年に廃止する計画の八雲病院についてたどしました。

国立八雲病院は、北海道随一の小児期発症の神経筋疾患専門病院で、小・中・高等学校からなる北海道八雲養護学校を併設しています。地元では800名を超える「国立八雲病院を守る住民の会」が、病院存続に取り組んでいます。

「国と道は八雲に病院機能を残すよう取り組むべき」と求める佐野議員に、佐藤保健福祉部長は、「患者や家族の意向を踏まえて進めることが重要。医療の充実につながるよう国立病院機構に必要な働きかけを行う」と答弁しました。

北海道でも熱中症死

生活保護を受給して西区のマンションに住む60代の女性が、最高気温31度になった7月29日に、熱中症で死亡しました。料金滞納で電気を止められ、クーラーや扇風機が使えない状態でした。

佐野弘美議員は8月7日、保健福祉委員会で、生活困窮者の命を奪う事態を繰り返してはならない。「道は北電に、ライフラインを担う公益事業者の自覚を持つよう強く求めべきだ」とたどしました。

京谷栄一福祉局長は「『連携会議』を活用し、安心して暮らすことができる地域づくりに取り組み」と答えました。

地域での見守り活用連携会議

白石区の姉妹餓死事件を受けて、見守り支援の情報共有や連携手法を検討・協議する目的の、市町村の福祉関係、水道・電気・ガスなどのライフライン、新聞・郵便・住宅など関連団体・事業者による連携会議

歯科健診の充実を

佐野弘美議員は、9月4日の保健福祉委員会で、「北海道歯科保健医療推進計画」について質問しました。



質問する佐野議員

佐野議員は「保健指導と歯科健診の充実に重点を置くべき」とたどしました。佐藤敏保健福祉部長は「フッ化物洗口の普及に努めるとともに、定期的な歯科健診や保健指導の機会の確保で、歯と口腔の健康づくりに取り組み」と答えるにとどまりました。

佐野議員は、むし歯が10本以上あるなどの「口腔崩壊」に

ついて「学校や歯科医師会等と連携して調査・把握し、支援を検討するべき」とたどしました。道は「定期的な歯科健診と保健指導」という従来の答弁に終始しました。

佐野議員は「東京都や沖縄県の調査では、貧困との関連が指摘されている。子どもの貧困が深刻な道は、実態を把握して支援するべきで、フッ化物洗口のような安上がりで一律の支援で虫歯は防げない」と指摘しました。

鉄路維持に住民合意を

国はJR北海道に経営改善の監督命令と、400億円（2年間）支援を示しました。

真下紀子議員は27日の地方路線特別委員会で、この支援が国と同水準の地域負担を求めていることについて、「沿線自治体の議論がなく、根拠も財源もあいまいなまま財政

負担は容認できない」とたどしました。柏木文彦交通政策局長は「整理すべき課題で、国に説明をもとめていく」と国の説明が不十分と認めました。

カジノ有識者懇の人選

道は学識経験者、経済界、観光業界、ギャンブル依存症対策の分野9人からなるカジノ有識者懇談会を設置しました。



質問する真下議員

真下紀子議員は、8月8日の観光特別委員会で、「世論調査では6割がカジノ設置に反対なのに、有識者懇談会の人選に反映されていない」と厳しく指摘しました。

お困り事はありませんか

佐野弘美議員は 6 日から、区内の避難所や給水所を訪問し、状況や要望を聞き取りました。「情報が伝わってこない」「食料がギリギリでいつ入るかも分からない」など不安の声が寄せられました。給水所では、「市内全域で断水になると聞いた」と、多くの市民が訪れるなど混乱がありました。



屯田中央中の給水を視察
佐野議員(右二人)

被災者・被災地支援の充実を

道議会議員団は、第 3 回定例道議会開催日の 11 日、高橋はるみ知事あての「北海道胆振東部地震の被災者・被災地支援



道議団の緊急要請 佐野議員(右)

難所で奮闘していた道職員について紹介し、被災地という極限状態で働く職員の健康への配慮を求めました。辻井宏文総務部危機対策局長は、「職員が元気に働けるように十分配慮します」と応えました。

篠路まちづくりシンポジウム

佐野弘美議員は 9 月 2 日、第 2 回篠路まちづくりシンポジウムに参加しました。篠路の歴史を伝える篠路駅東口の開発について、ロータリーなど開発計画のあり方が議論されました。

地域住民に計画を知らせ、住民合意の上でまちづくりが進められるべきです。

さのっちのホットー息

災害への備え、今一度確認を

北海道胆振東部地震では、北区でも前代未聞の震度 5 強を記録し、経験したことのない激しい揺れに見舞われました。大規模停電では信号が止まり、物流もストップ、スーパーやガソリンスタンドは長蛇の列となり、団地等では水も出ないなど、様々な不自由が強いられました。私もその一人ではありますが、皆様には心からお見舞いを申し上げます。

訪ねた避難所では「食品が足りない。情報もない」という不安の声を伺いました。給水所では「あと数時間で断水になると聞いた」という人が続々と訪れ、給水袋が足りなくなる事態でした。

震災を通して、平素からの備えの大切さを痛感しました。断水や大きな余震などのデマが流され、不安を大きくしました。こういう時こそ正しい情報、冷静な判断が必要と実感しました。

今回の災害を教訓に、現状の対策を見直す必要があります。道議会で様々な角度から質問に取り組む決意です。